
夜、雨の大阪城公園にて

想 詩拓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜、雨の大阪城公園にて

【Nコード】

N5131T

【作者名】

想 詩拓

【あらすじ】

夜、雨の降る大阪城公園にて見かけた一人のオッサンに、僕が思ったこと。

夜、雨が降る大阪城公園。

駅へと続く道は水はけが悪く、いたるところに薄く水が張っている。明るい街頭が水面を照らし、暗い夜を際立たせつつも目映く光る。

ふと道脇の、閉店した売店に目をやると一人のオッサンがパイプいすに座っている。

わずかにせり出した軒下で、ポケットに手を入れて、じつと座っている。

春から夏へ繋がる梅雨へと移り行く5月。

降る雨を押しのかけて通る風は冷たく、オッサンに吹き付けている。

蔑む気持ちにはなれないが、哀れむのも失礼か。

そもそも哀れんだとしても、僕には何もできやしない。

いいや、何もできないなんてことはない。

金をかけ、時間を費やせば、あのオッサン一人くらいなら救い出せる。

僕は、金を時間を失うのを惜しんで通り過ぎる。

あのオッサン一人のために、今自分が持っているものを捧げられない。

だから、結局見ても見なくても、同じことだった。

オッサンの椅子のそばで、猫が一匹寄り添うように丸くなっている。

それを見て、思い直す。

僕はオッサンを救うことはできない。

助けることはできても、救うことなど。

わずかながらもオッサンに救いを与えられるとすれば、与えている
とすれば

それは、そこに丸くなっている猫、なのだろう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5131t/>

夜、雨の大阪城公園にて

2011年10月8日15時23分発行